令和8年度 園だより



こうきた 11月号

杉並区立高円寺北子供園

わくわくが生まれる・つながる・広がる遊びの中で溢れる学びをつかみ取る！

園　長　川嶋　佳恵

園庭の木々も色づき始め、澄んだ空気に秋の深まりを感じる季節になりました。高円寺北子供園は自然環境に恵まれた素晴らしい園です。これからの季節は様々な木々の落ち葉が降り注ぎ、あちらこちらが落ち葉で埋め尽くされます。そして敷地内の木々の果実が色づき、収穫の季節の到来です。ミカン、ザボン、ユズ、キンカンなどなど…子どもたちと一緒に収穫することが楽しみです。そして、秋の園庭はとても魅力的な遊び場になります。秋から冬の園生活も「わくわく」楽しいことがいっぱいですね。

さて、11月5日は、本園の教育課題研究発表会があります。私たちは、令和７・８年度杉並区教育課題研究指定園として、子どもたちが「わくわく」しながら遊ぶことの重要性に着目し、研究テーマ「わくわくが生まれる・つながる・広がる遊びを育てる指導や環境の工夫」のもと、２年間にわたり教育研究を推進してまいりました。このテーマのきっかけとなったのは、本園の園内研究会講師であり、日本の幼児教育の第一人者である聖心女子大学名誉教授・幼児教育研究室「遊びと学びの森」主宰の河邉貴子先生の『「わくわく」遊ぶということはなぜ大切か』という論説に深く感銘を受けたことでした。その論説の中では、「「わくわく」は「湧く湧く」であり、その語源は水などが地中から出てくるさまや、物事が急に表れるさまにある。コンコンと尽きることなく湧き出る泉の水は、一つにとどまることなく、常に新鮮で勢いがある。それが転じて、どんどん心の中から溢れてくる状態を表す言葉になった。「わくわく」するという感情は、私たちが主体者として生きていく上の原動力のようなものだといえる。そして、子どもたちが、わくわく遊ぶ姿においては、次々とやりたいことが湧き出て主体的に対象世界と向き合おうとすることそのものが大切なのではないか」と記されています。私たち人が、「わくわく」しながら日常生活を送るということは、まさにそれぞれのウェルビーイング（精神的にも身体的にも社会的にも満たされ、自分自身が幸せと感じる状態）を満たし、多面的で持続的な幸福感を感じながら生きていくことなのだと考えます。「わくわく」は、大人にとっても日常生活に活気を与える素敵な感情であり、幼児期の子どもたちにとっては、遊びが充実するために不可欠な感情だと考えました。

では、「わくわく」が生まれる・つながる・広がる遊びとはどのようなことを指すのでしょう。子どもたちは遊びの中で、人やもの、出来事に出会う中で心が動かされ、「これ、面白そう！」「やってみたい！」等わくわくする感情が生まれ、遊びになっていきます。これが、わくわくが生まれるということです。そして、その遊びの中で、「やってみたい」「もっとこうしたい！」とやりたいことが次々と生まれそれを実現しようとする中で、一つの「わくわく」から次の「わくわく」へとつながります。これがわくわくのつながりです。昨年度の 11 月の園だよりでも触れましたが、前出の河邉氏によると遊びの中の「わくわく」には、「拡張的なわくわく」と「収束的なわくわく」があると言います。「収束的なわくわく」は、目の前の遊びや課題に集中し没頭する中で遊びの目当てを明確にもち、次はこうしてみようと、ものの仕組みや方法を試行錯誤しながら探ったり見出したりする中で生まれるわくわくです。一方「拡張的なわくわく」はものや経験、一つの遊びをきっかけに偶然思いついたことや偶発的な出来事を取り込みながら遊びの目当てがその都度生成され、想像が広がり、「もっとこうしたら楽しそう」「いいこと考えた！」と遊びのイメージが広がったり、一つの遊びが他の遊びや関わりへ発展したりするような「わくわく」です。この拡張的なわくわくと収束的なわくわくを繰り返しながら遊ぶということをわくわくのつながりと捉えています。そしてこの「わくわく」のつながりが充実しながら遊ぶ中で、新たな発想や友達との関わりによって遊びが多様に展開したり、一つの遊びから分岐して、新たな動きや遊びに広がっていくことをわくわくの広がりと言います。もちろん、わくわくが「生まれる」「つながる」「広がる」ということは、それぞれが独立しているものではなく、相互に関連しながら遊びを支えるものになると捉えています。子どもたちが「わくわく」する気持ちを次々に感じながら主体的に遊ぶことで、一つの遊びが継続し、または、一つの遊びが変化し、多岐に展開し、それぞれの遊びの楽しさや面白さ、探求心や仲間とのつながりが深まり、充実し、子どもたち自身でつかみ取る学びが溢れるほど多くあるのです。

また、この研究を通して分かったこととして、一つの遊びが充実するためには、子どもたちが遊びの中で感じる「わくわく」が、単発的に起こるのではなく、遊びの核となるテーマやイメージ、ストーリー等に関連しながら生まれ、つながっていくことが大事だということです。高円寺北子供園の研究では、この核となるものを「モチーフ」と言います。例えば、なんとなく戦いごっこを始めた子どもたちが、時折、追いかけたり、戦ったりして楽しんでいるようにみえましたが、そのうちつまらなくなって、やめてしまうということがあります。これは、その場その場で単発的に「わくわく」は感じているけれど、子どもたち同士をつなぐストーリーやイメージ、例えば、具体的なヒーローであったり、忍者や海賊等であったりするモチーフが無いため、遊びの中で生じた「戦って楽しい」「追いかけて楽しい」という「わくわく」した感情が次の「こうしたら面白そう」とか「もっとこうしよう」、「敵が攻めてきたらここに隠れることにしよう」等の「わくわく」につながることはなく、その遊びがつまらなくなって遊びが消滅してしまったということなのです。これでは、子どもたちが遊びの中で、つかみ取る学びにはつながりませんね。

私たち高円寺北子供園の保育者は、子どもたちの意欲や興味・関心の動力となる遊びの中の「わくわく」がモチーフを核としながら途絶えることなく繰り返され、遊びが面白く、多様に展開する中で、人とのつながりが深まり、幼児自身が溢れる学びをつかみ取りながら満足感や充実感を感じられるようにするために、日々どのような言葉をかけ、子どもたちの「わくわく」をどのように支えていく必要があるのか、前日の遊びの取り組みの様子から、次の日の保育室の環境設定や教材準備はどうしておくのか、試行錯誤しながら個々に応じた最適援助・指導をしています。そして、今後も、子どもたちは、このような「わくわく」が繰り返される楽しい遊びを通して気が付くと、幼児期に身に付けるべく人格形成の基礎となる力が身に付いているという質の高い教育・保育を実現していきたいと考えます。

保護者の皆様には２年間という研究期間を通してたくさんのご理解、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。私たち高円寺北子供園の職員はこの研究を通して身に付けた幼児教育に携わる者としての資質・能力を子どもたちへの教育・保育に生かして参ります。

≪今月の指導≫

★3歳児　うさぎ組

気候が心地よく感じられる日が増えてきました、より体を動かして遊ぶようになり、グラウンドでは繰り返しかけっこや、しっぽ取りなどを楽しんでいます。

また、散歩先で見付けた落ち葉や木の実を拾って集めるなど、秋の自然に触れて遊ぶ姿も見られます。季節の変化を感じたり、見付けた自然物を使って遊んだりしながら秋を十分に感じて楽しめるようにしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●秋の自然物で遊んだり、体を動かしたりしながら自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。

●みんなと一緒にする中で体を動かしたり、触れ合ったりする楽しさを感じる。

●手洗いうがいなど園生活に必要なことが少しずつ分かり自分から行おうとする。

11 月から全員保育の時間が長くなるため、子どもたちの様子に応じて活動内容を考えながら、無理なく楽しく過ごしていけるようにします。

★4歳児　くま組

運動会を終え、友達と体を動かして遊ぶことが更に楽しくなったくま組の子どもたち。心地よい気候の中で、友達と誘い合ってリレーやしっぽ取りなどを繰り返し楽しんでいます。

また、木の実や落ち葉など、秋の自然物を集めたり、集めたものを遊びに取り入れたりして遊ぶ姿も見られます。散歩や遠足などにも出かけながら、秋の季節を感じながら伸び伸びと遊べるようにしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●自分の思いを表現しながら、保育者や友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

●イメージをもちながら、みんなで何かになりきって動くことを楽しむ。

●季節の変化に合わせて、生活に必要なことを行おうとする。

遊びの中で、友達とのやり取りや、必要なものを作って使うことを楽しんだり、何かになりきって表現する遊びも楽しんだりできるようにしていきます。

★5歳児　ぞう組

運動会を経験したことで、より友達とのつながりが深まってきました。数人で考えを出し合いながら遊びを進めたり、友達を誘い合ってお宝ドロケイ（宝ありのドロケイ）をしてチームの友達と力を合わせたりしています。秋の自然にも触れ、どんぐりを転がすコースなどの製作に生かして遊んでいます。また、収穫したサツマイモの数を数えたり、拾ったどんぐりの重さを量ったり、数や量にも興味をもち遊んでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●めあてに向けて試行錯誤をしたり、挑戦したりする楽しさを感じる。

●お話の世界を楽しみながら、友達と考えを出し合いながら劇をつくっていく楽しさを感じる。

●１日の生活に見通しをもち、友達と声をかけ合いながら生活を進める。

子ども会に向けて、子どもたちと表現する楽しさを味わいながら、自分たちの劇をつくっていくことの楽しさを感じられるようにします。また、縄跳びやフラフープなど自分のできるようになりたいことに向けて挑戦して遊ぶことができるようにしていきます。